

20109

下大静脈フィルター留置に 3D CT Roadmap が有用であった症例

(背景・目的)急性肺血栓塞栓症(PTE:pulmoary thromboembolism )の血栓発生源の多くは下肢、骨盤領域の深部静脈血栓症(DVT:Deep vein thrombosis)とされている。PTE の予防法に下大静脈フィルター留置があり、下大静脈フィルターは、腎静脈の血流を障害しないように、腎静脈の流入下方に留置するのを原則としている。腎静脈の位置確認の為に、従来は下大静脈造影を行っていたが今回、3D CT Roadmap の使用により下大静脈フィルター留置を非造影で行い、フィルター位置決めが有用であったので報告する。(方法)当院では PTE・DVT を疑われた症例に対しルーチンで肺動脈、下肢静脈造影 CT を施行している。その静脈相の CT を利用し Roadmap として使用している。X 線透視との位置合わせとして下大静脈フィルター留置術施行時に Cアームの回転撮影から得た骨や血管の情報を利用し CT と位置情報を重ね合わせ、画面上で X 線透視上に重ねる。(結果・考察)3D CT Roadmap を用いることにより腎静脈の合流部位と下大静脈の形状を容易に把握できるため、下大静脈フィルター留置の際の位置決めや、同一手技内で造影剤を用いずフィルターを留置することができた。(結語)下大静脈フィルター留置に 3D CT Roadmap を使用することで、より安全に下大静脈フィルター留置をすることが可能となった。しかし 3D CT Roadmap は体動による Roadmap のズレが見られる為、患者が安静を保てないような状況においては使用が難しいと考えられる。